JADECOM-NDC 研修センター

特定ケア看護師の挑戦

練馬光が丘病院における特定ケア看護師の活動

練馬光が丘病院 特定ケア看護師　長谷部 桂

病院紹介

練馬区は東京都23区の北西部に位置し，練馬光が丘病院はさらにその最北端にあります．病院前にある公園を抜けると埼玉県に接している．二次救急外来のある300床の中規模病院になります．

日本の人口は年々減少が続いておりますが，練馬区は人口が増加し，練馬区役所のホームページでは平成27年度は人口72万人と世田谷区に次いで多い区となっており，今後も増加が見込まれています．

人口自然増減から見ると出生人口は増減ないものの死亡数は増加しており，人口増加の大きな要因は転出人口より転入人口が勝っている点です．そして生産人口比率は低下し高齢人口比率は増加している点では全国推移と変わりありません．

以上のことから，当院でも入院患者の平均年齢上昇が顕著となっております．

所属体制

私は地域医療振興協会の「特定行為に関わる看護師」研修を終えた後は看護部に所属しながら１年８ヵ月の卒後研修を各診療科で研修を行い，2019年度からは２期生として当院の総合診療科に所属しております．

日常の業務

主に何人かの患者を入院から退院まで主治医の指導のもと担当しております．出勤するとまず初めにカルテを見渡して受け持ち患者の回診を一人で行います．その後に総合診療科全体で行われるモーニングカンファレンスで１日が始まります．症例の情報共有やレクチャーを受けて，その後に各チームに分かれ朝回診で各病棟をまわり，現場看護師と情報共有や治療方針を確認し合います．この時，理学療法士やメディカルソーシャルワーカー，臨床工学技師などからの情報も現場に伝えたりしています．多職種に関わることで横のつながりを構築していくことを心がけ，常に変化のある情報を共有していくことに私は重点を置いています．これは看護師業務を行っていた時によく考えていたことですが，多職種の横のつながりと言っても実際は各々が別の場所で活動しているために話をする機会が少ないことや，医師とソーシャルワーカーだけが知っている情報，看護師と理学療法士しか知らない情報や看護師の一部しか知らない情報などさまざまなケースがあり，あとになって「そんなエピソードがあったの？」と知ら

朝回診

されることもしばしばありました.

この点から自らその多職種の現場に出向き，情報を伝えていくことにしています．また，情報の窓口としての役割を担えるようにどんなことでも気軽に聞いてもらえるような関係性を築くよう行動しているつもりです.

また，情報を共有する点で看護師ならではと思っていることがあります．よく担当看護師に「なんでこのA薬を始めたんですか？ 普段B薬を使うことが多くないですか？」といった類の質問をされます．看護師の教育課程を受けた私は看護師の知識の弱い面，強い面を実感しているので, 疾患の機序, 先生方と議論しアセスメントした治療方針，薬剤師からの得た知識,「特定行為に関わる看護師」研修で得た知識を基に看護師が知りたい知識，疑問を誰が聞いても理解できる内容で伝えるよう注意しています．中には疾患について興味を持ってくれる人もいます．この看護師の疑問を解消した上で改めて情報共有すると理解が深くなったと実感してくれるケースもあります．入院患者の観察点についても視野が広がったと言ってくれる人もいました．基本的には診療業務を行うことが日課となっておりますが，私は看護師ですので，看護業務を並行しております．看護師としての視野を基本に行動することがこの職種の大事な特徴であります.

そして私の担う業務は病棟業務だけではなく，週１回程度救急外来を担当もさせてもらっています．救急車の対応を始め，夜間救急外来を訪れた患者の病歴と所見をとりながらアセスメントし救急指導医に報告し初療を進めていきます．また，夜間救急外来が混雑してくる時には状況を見て，他の先生が初療している患者のエコーや動脈ラインの確保，人工呼吸器設定などを行い，看護師業務も行います．ここでは内科に限らず，いろいろな症状を訴えて来る方も多いので私自身もとても貴重な経験をさせてもらっています．ここで得られた経験は初期対応としての点でも病棟で不調を訴えてくる方の対応にも一役買っています．また，入院が必要と判断した場合には，総合診療科に入院してもらい，そのまま入院患者として担当を継続していきます.

まだまだ，自信を持てることは一つもありませんが，こうした経験を継続していくことでいずれは役に立つことができるようにと日々鍛錬の毎日を過ごしています．今後はへき地医療にも参加していくつもりで活動の場を広げていこうと考えております.